

令和 7 年度地域交通確保維持改善事業費補助金 (地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金) 交付申請について

○フィーダーとは

主要な交通結節点（鉄道駅やバス停など）と、その周辺の地域や住宅地などをつなぐ、補完的な役割を持つ交通手段のこと（G o o g l e A I）

本市では、越前大野駅や九頭竜湖駅を交通結節点とし、まちなか循環バス、乗合タクシー、市営バス和泉大野線・和泉乗合バスを補完的な役割を持つ交通手段と捉え、補助路線として申請しています。市営バス下庄線は対象外です。

○フィーダー補助金

補助対象期間 10月から9月まで（R7年度：R6年10月からR7年9月まで）

○補助上限額

「令和7年10月20日 国総地第167号の1 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る国庫補助上限額について」において、「国調人口×240円＋400万円」が示された。R2国調人口は、31,286人であり、11,508,000円となる。（昨年度は、11,508,000円→補助対象経費の2分の1＝15,376,000円となった。）

○補助対象経費の算出

スクリーン参照

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年11月5日

協議会名: 大野市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
まちなか循環バス		▼R6年評価結果の反映状況		R7年度目標:年間利用者13,600人、収支率4.5%	
大野観光自動車株式会社 「まちなか循環バス奥越明成高校先回り(旧赤バス)」 「まちなか循環バス大野高校先回り(旧青バス)」	越前大野駅を中心に、市街地北部と市街地南部を8の字で運行する路線定時運行	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生、高齢者等へのPR・利用喚起 ・デジタル定期券を導入するなど利便性を向上 ・マイ時刻表の周知や総合時刻表マップの配布による利用促進 ・ニーズや利用実態にあわせた運行内容の見直し検討 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A <ul style="list-style-type: none"> ・年利用者数:13,628人(+768人) ・収支率:4.7%(+0.1ポイント) →利用者は増加 →収支率も微増 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生、高齢者等へのPR・利用喚起 ・デジタル定期券の周知 ・マイ時刻表の周知や総合時刻表マップの配布による利用促進 ・ニーズや利用実態にあわせた運行内容の見直し検討
乗合タクシー		▼R6年評価結果の反映状況		R7年度目標:年間利用者4,300人、収支率4.8%	
大野旅客自動車有限会社 「乗合タクシー大矢戸・乾側線、森目・阪谷線、友兼・蕨生線、小山・木本堀兼線」	田園集落4区域と市街地を結ぶデマンド型区域運行、主に高齢者等の通院、買い物に利用	<ul style="list-style-type: none"> ・乗合タクシーの周知と適切な運行 ・高齢者を対象とした利用説明会実施など利用促進 ・マイ時刻表の周知や総合時刻表マップの配布による利用促進 ・健康・福祉・市民生活分野等との連携による利用促進、共創の検討＝ワンストップ化、周知の強化 	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C <ul style="list-style-type: none"> ・年利用者数:2,784人(-169人) ・収支率:3.7%(+0.2%) →利用者は減少、収支率は微増 →要因として、酷暑、ヘビーユーザーが数名利用しなくなったことが挙げられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗合タクシーの周知と適切な運行 ・高齢者を対象とした利用説明会実施など利用促進 ・マイ時刻表の周知や総合時刻表マップの配布による利用促進 ・健康・福祉・市民生活分野等との連携による利用促進、ワンストップ化など利便性向上による周知の強化
市営バス和泉大野線		▼R6年評価結果の反映状況		R7年度目標:年間利用者3,100人、収支率5.0%	
いずみタクシー株式会社「市営バス和泉大野線」	和泉地区と市街地を結び、主に和泉地区に住む中学生や高校生の通学、高齢者等の移動手段として運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バス和泉大野線の適切な運行 ・地区内での利用説明会実施など利用促進 ・観光客への周知 	B 計画に位置付けられた事業は、概ね適切に実施された(説明会未実施)	B <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数:2,426人 ・収支率:4.1% →期間内の利用者は増加傾向 	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バス和泉大野線の適切な運行 ・観光客への周知
市営バス和泉乗合バス		▼R6年評価結果の反映状況		R7年度目標:年間利用者1,200人、収支率5.0%	
いずみタクシー株式会社「市営バス和泉乗合バス」	和泉地区内で、診療所への通院や買い物、JR越美北線や和泉大野線が接続する九頭竜湖駅と和泉地区内の往来、また、地区内における児童生徒の通学手段として運行する区域予約運行	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バス和泉乗合バスの適切な運行 ・地区内での利用説明会実施など利用促進 ・観光客への周知 	B 計画に位置付けられた事業は、概ね適切に実施された(説明会未実施)	B <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数:1,044人 ・収支率:4.8% →期間内の利用者は横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> ・市営バス和泉大野線の適切な運行 ・観光客への周知

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

大野市公共交通活性化協議会 （福井県大野市）

平成 2 0 年 2 月 2 9 日設置

令和 5 年 1 1 月

大野市地域公共計画策定

（計画期間：令和 6 年 4 月～令和 1 1 年 3 月）

令和 5 年 6 月 2 7 日

フィーダー系統確保維持計画策定等

1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

＜大野市地域公共交通計画＞（R6～R10）（令和5年11月策定）

●地域の特性と背景

- ・ **大野市**：福井県の東部に位置し、人口29,291人（R7年10月1日現在）、福井県内最大の面積（872.4km²）
- ・ **高齢化率**：37.5%（令和2年国勢調査）（県内でも3番目）と全国平均（28.6%）を大きく上回る
- ・ **公共交通**：広域交通 → JR越美北線、京福バス大野線、京福バス勝山大野線

地域内交通→ まちなか循環バス（市街地）、乗合タクシー（田園部）、市営バス（山間部）

●大野市地域公共交通計画の要点（R5.11策定、期間：R6～R10）

○計画の基本方針

『“安心して住み続けられる結のまちに”～あらゆる移動の確保・共創で定住を推進～』

○計画の目標と目標値

基本方針

目標

安心して住み続けられる結のまちに

～あらゆる移動の確保・共創で定住を推進～

目標1 安心して移動できるまちに

～定住を支える公共交通の確保～

目標2 ちょうど良い公共交通があるまちに

～公共交通ネットワークの再構築と改良～

目標3 もっと移動にやさしいまちに

～交通サービスの利便性向上～

目標4 結の心と進取の気象で共創のまちに

～さまざまな連携と新技術で移動を確保～

目標5 楽しく快適に周遊できるまちに

～楽しく快適な二次交通の充実と周遊性の向上～

評価指標

市内公共交通利用者数
18,412人 ▶ 22,200人

運転免許自主返納支援事業
申請者の割合
56.4% ▶ 73.7%

市内公共交通収支率
3.2% ▶ 4.8%

乗合タクシーリピーター数
66人 ▶ 100人

共創事例の創出件数
－件 ▶ 5件

広域公共交通利用者数
445,795人 ▶ 530,000人



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

●具体的な取組内容（主に補助対象路線） ※赤字は今年度実施 / ★：補助対象路線

①運行

★まちなか循環バス：

- ・赤バス⇒奥越明成高校先回り、青バス⇒大野高校先回り に変更
- ・鉄道やバス（地域間幹線・市営バス）のダイヤを考慮し接続性を向上
- ・一部ルートの見直しにより、特に通学における速達性を向上

★乗合タクシー：

- ・会員になると自宅までの送迎が受けられる会員制を導入。タクシー利用料金助成も新設（ワンストップ化）
- ・歯科医院をはじめ、まちなかの停留所を追加し、豊富な目的地を設定

★市営バス和泉大野線・和泉乗合バス

- ・市営バス2路線を統合し、スクールバスも兼ねた路線を新設。越美北線のダイヤを補完
- ・和泉地区内の市営バス2路線を統合しデマンド化。利用可能時間が増加
- ・運行実態に合わせ、ダイヤを一部改正

○市営バス下庄線

- ・廃止バス路線をまちなか循環バスの車両を活用し、市営バスとして路線を新設、運行効率化

②利用促進

・バスロケーションシステムの導入

・まちなか循環バスデジタル定期券の作成

・マイ時刻表作成の開始 ⇒ H29.6月～ 市内だけでなく、他市の情報も掲載

・運転免許自主返納支援制度 ⇒ H24～（市内公共交通の利用が無料）

・乗合タクシー会員制の導入

・タクシー利用助成券事業（福祉・外出支援）のワンストップ化

・まちなか循環バスの定期券購入者に対する買物券進呈（小売事業者の協力によるもの）

・広域路線バスの市内区間の利用に対する助成（65歳以上の市民が対象）

・市内高校、後期高齢者説明会等において、公共交通利用のチラシ配布または説明会・乗り方教室を開催し利用を周知

・まちなか循環バス定期券の障がい者等割引の導入

・ふくいMaaS協議会の活動に参画

・「越美北線と乗合バスに乗る運動を進める会」の活動を展開

・JR越美北線の定期券と同区間の広域路線バスに400円で乗車可能になる割引制度の導入（上り新設）

●公共交通計画の評価指標と目標値の考え方

	評価指標	算出方法	単位	基準値 (基準年度)	目標値 (目標年度)
基本方針	市内公共交通利用者数	市内公共交通の年間利用者数※1	人	18,412 (R4)	22,200 (R10)
		(内訳) まちなか循環バス		11,410	13,600
		乗合タクシー		2,927 (定時利用者数を除く)	4,300
		市営バス和泉大野線		4,075	3,100
		和泉乗合バス		※2	1,200
目標1	運転免許自主返納支援事業申請者の割合	市が行う運転免許自主返納支援事業への年間の申請者数を、その年の運転免許返納者数で割り返した値	%	51.5 (R4)	73.7 (R10)
目標2	市内公共交通収支率	市内公共交通の年間の運賃収入※1を年間の運行経費で割り返した値	%	3.2 (R4)	4.8 (R10)
目標3	乗合タクシーリピーター数	乗合タクシーを年間10回以上利用するリピーター数 (上り・下りをそれぞれ1回としてカウント)	人	66 (R4)	100 (R10)
目標4	共創事例の創出件数	さまざまな主体が連携して新たに取り組む共創事例の累計件数 (同じ内容の取り組みを複数回行う場合は、全体を1件としてカウント)	件	－ (R4)	5 (R10)
目標5	広域公共交通利用者数	JR越美北線と広域路線バス(大野線、勝山大野線)の年間利用者数 (広域路線バスは前年度の10月から当年度の9月末までを集計期間とする)	人	445,795 (R4)	530,000 (R10)
		(内訳) JR越美北線		279,091	334,000
		京福バス大野線		120,293	150,000
		京福バス勝山大野線		46,411	46,000

基本方針・目標	評価指標と目標値の考え方
基本方針 安心して住み続けられる結のまちに	市内公共交通利用者数 公共交通の利用者数の増減は、交通サービスの提供や利便性向上策、利用促進策など本計画に基づく取り組みの成果を図る上で最も適当と考えられ、また、各評価指標の値にも関連します。そのため、市内公共交通の利用者数を、基本方針に対する指標として設定しました。 目標値は、路線等毎に目標を定め、その合計22,200人を目指します。
目標1 安心して移動できるまちに	運転免許自主返納支援事業申請者の割合 暮らしを支える公共交通を確保し、安心して移動ができるまちとなることで、マイカー利用から公共交通への利用に切り替えることができます。そのため、運転免許自主返納者のうち、市が行う運転免許自主返納支援事業に申請した者の割合を指標として設定しました。 目標値は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出る前で最も割合が高かった、令和元年度の73.7%を目指します。
目標2 ちょうど良い公共交通があるまちに	市内公共交通収支率 交通サービスを提供し利用者がその対価・運賃を支払う、そのバランスが適当か否かを判断する必要があります。そのため、運賃収入を運行経費で割り返した収支率を指標として設定しました。 目標値は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出る前の令和元年度と同水準の4.8%を目指します。
目標3 もっと移動にやさしいまちに	乗合タクシーリピーター数 交通サービスの利便性向上策により、これまで運転に不安を覚えながらもマイカーで移動していた方や家族の送迎等で移動していた方が、公共交通を利用する機会・頻度が増加します。そのため、市の広範囲で運行する乗合タクシーを10回/年以上利用するリピーター数を指標として設定しました。 目標値は、現在の66人より34人多い100人を目指します。 (この100人は乗合タクシー利用者数の目標値4,300人と整合が図られています)
目標4 結の心と進取の気象で共創のまちに	共創事例の創出件数 新たな移動手段の創出や利便性の向上に向けては、交通事業者やその他の事業者、地域、団体、行政などの連携が必要です。そのため、さまざまな主体が連携して新たに取り組む共創事例の件数を指標として設定しました。 目標値は、計画に掲げる以下5件の実現を目指します。 (実施事業 1-6:スクールバスとの連携/3-9:事業者等との連携/3-10:広域MaaSの取り組み/4-1:共助型移動支援の取り組み/4-2:貨客混載・物流との連携)
目標5 楽しく快適に周遊できるまちに	広域公共交通利用者数 公共交通を利用して楽しく快適に周遊できる環境が整うことで、来訪者や市民の市外との往来、移動の増加が見込まれます。そのため、広域公共交通(JR越美北線、京福バス大野線、京福バス勝山大野線)の利用者を指標として設定しました。 目標値は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出る前の令和元年度と同水準の530,000人を目指します。

■ 【地域公共交通確保維持改善計画における目標の達成状況】

1) 目標指標に関する評価 【補助対象路線】 ※上段：総利用者数、下段：収支率

路線	目標値 (R7)	実績値 (R7)	評価	
まちなか循環バス	13,600人 4.5%	13,628人 4.7%	A	・ 昨年と比較して利用者は増加。高校生の利用が増加している。引き続き高齢者に対するPRなど利用促進が必要
乗合タクシー	4,300人 4.8%	2,784人 3.7%	C	・ 利用者は減少している。免許返納前から利用してもらえるよう新規利用者確保に向けたPRが必要
市営バス 和泉大野線	3,100人 5.0%	2,426人 4.1%	B	・ 期間内の利用者数は増加傾向、観光客へのPRなど利用促進が必要
市営バス 和泉乗合バス	1,200人 5.0%	1,044人 4.8%	B	・ 期間内の利用者数は増加傾向、観光客へのPRなど利用促進が必要

2) その他路線に関する評価 【非補助対象路線】市営バス、市内路線バス、広域路線バス

- 市営バス（下庄線）
期間内の利用者数は増加（児童の増加による）。
- 広域路線バス（京福バス大野線、勝山大野線）
大野線は、運転手不足が原因で10月1日から減便となった。利用者アンケートを実施し、必要なダイヤについては、関係者と調整しながら復便を求めている。

【自己評価から得られた課題】

① 目標の達成状況に関する課題

- 路線によって利用者数は増加・減少となっている。運行経費は増加していく見込み

→ 制度の周知など利用促進策の実施により新規利用者の確保が必要

② 公共交通ネットワークに関する課題

- 児童・生徒の通学手段や高齢者等の買い物・通院等の日常生活を支える上で必要不可欠な路線の維持

→ 制度の周知など利用促進策の実施により新規利用者の確保が必要

③ 公共交通の維持に関する課題

- 運転手不足や高齢化の進行
- 利用者減少による収入の減少と公的負担の増加

→ 利用者ニーズや利用実態に応じた公共交通の最適化を検討

→ 制度の周知など利用促進策の実施により新規利用者の確保が必要

→ 事業者間の連携、担い手確保の取り組みが必要

【今後の方針】

<全体>

- 地域公共交通計画及び大野市地域公共交通利便増進計画に基づく施策の実施
- 公共交通交通ネットワークの周知と適切な運行
- 交通事業者間や教育や福祉との連携など共創を推進
- マイ時刻表やわかりやすい情報提供など利用促進の展開

<まちなか循環バス>

- 高校生、高齢者等へのPR・利用喚起
- デジタル定期券のPR
- ニーズや利用実態にあわせた運行内容の見直し検討

<乗合タクシー>

- 会員制度の周知
- 乗り方教室の実施
- 地域の実情に応じた共助型移動支援の取り組みを推進

<市営バス>

- 和泉大野線・和泉乗合バスの周知と適切な運行
- 下庄線の適切な運行
- JR越美北線と連携した利用促進の展開

<広域路線バス・JR> (京福バス大野線、勝山大野線)

- 市内区間利用助成(100円乗車)の継続
- 運行継続に向けた事業者への支援(運行補助)
- 復便へのはたらきかけ
- 新幹線開業を見据えた交通系ICカード導入とMaasの取り組みを推進
- 高校生の通学利用の補助(勝山大野線)
- JR越美北線と連携した利用促進
- 県や沿線自治体、運輸支局など関係者との連携

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和7年3月27日)	・まちなか循環バスについて、鉄道や地域間幹線系統・市営バスとの乗り継ぎを考慮するため、運行ダイヤの見直しを行ったことを確認しました。 また、市営バス2路線を統合し、スクールバスも兼ねた路線を新設し、鉄道のダイヤを補完する役割を担っていることを確認しました。	・事業者との連絡を密に取りながら、利便性が確保されているか常に確認している。	引き続き、交通事業者と連絡を密に取りながら、適切な運行に努める。
	・乗合タクシー会員制の導入や、タクシー利用料金の助成等、きめ細かな交通サービスの取組を進められたことを確認しました。	・交通支援のワンストップ化を実施し、移動が困難な方の負担軽減と併せて、制度の周知を図った。	引き続き、利用者の利便性を高めるために取り組んでいく。
	・引き続き、コミュニティバス・乗合タクシー等の利用状況や利用者の声を把握・分析し、その効果を検証され、その後の施策や利用促進などに活用されることを期待します。	・再構築の効果分析事業を実施している。 ・まちなか循環バスデジタル定期券を作成し、販売している。	特に移動制約者のニーズをくみ取り、最適な公共交通の実現を目指していく。
	・運転免許自主返納支援事業について、更なる制度周知を図るよう、他部署とも連携した取組を進められることを期待します。	・交通支援のワンストップ化を実施し、移動が困難な方の負担軽減と併せて、制度の周知を図った。	ワンストップ化の問題点を洗い出し、利用者にとって更に使い勝手のいい制度にしてい
	・引き続き、広域公共交通であるＪＲ越美北線や地域間幹線バスとの接続にも意識しながら、公共交通ネットワークの維持・充実や利用促進に努められることを期待します。	・京福バス大野線は、ＪＲ越美北線の定期利用者に対し同区間を割引で利用できる制度により相互利用を促進している。 ・京福バス減便後も、利用状況やニーズ、課題等について福井県や福井市、京福バスと共有し、復便を求めている。 ・通学利用者の利便性を高めるため、勝山大野線の朝一便のルートを改正した。	ＪＲ越美北線の利用者に対する京福バス大野線の相互利用の促進、大野市から勝山高校通学者に対する勝山大野線の利用促進を図る。 引き続き、関係者間で利用状況や課題等について共有し、連携して解決を図る。

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回 (令和6年3月21日)	大野市地域公共交通網形成計画の後継計画として、令和5年11月に大野市地域公共交通計画を策定、公表されたことを確認しました。		地域公共交通計画を推進する。
	市営バスの利用状況や地域の課題を踏まえ、令和6年4月に向け、市営バス和泉線と道の駅線の統合による和泉大野線の新設（スクールバス機能も兼ねる）、同じく市営バス前坂線と中竜線の統合による和泉乗合バスの新設など、効率化を図りながら利便性の向上に向けた再編・調整をまとめられたことを評価します。		今後の利用動向を整理・分析し、必要に応じて運行計画の随時見直しを図る。
	新たな地域公共交通計画の下、関係者と連携・協働し、各施策に取り組まれることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事業者との意見交換は随時行っている。 	移動支援関連部署と連携し、手続きを一元化
	市営バスの再編については、再編実施後の利用状況や利用者の声を把握・分析し、その効果を検証され、その後の施策や利用促進などに活用されることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> イレギュラーな事象が起きた場合には、運行事業者と相談しながら、利用者ファーストで運行している。 	アンケートなど利用者の声を把握分析する。
	令和6年4月の再編を機に、広域公共交通であるJR越美北線や地域間幹線バスとの接続など、改めて公共交通ネットワークとしての周知や利用促進に努められることを期待します。	<ul style="list-style-type: none"> 広域公共交通であるJR越美北線や地域間幹線バスとの接続を意識したダイヤを作成 地域イベントにおける利用促進やJR、ふくいMaaSと連携した利用促進を実施 	引き続き、まずは知ってもらう、一度利用してみる、というところから始める利用促進を推進していく。
	引き続き、市内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け、県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。	<ul style="list-style-type: none"> 京福バス大野線は、JR越美北線の定期利用者に対し同区間を割引で利用できる制度により相互利用を促進 京福バス減便の際には、利用状況や課題等について福井県や福井市、京福バスと共有し、対応 勝山大野線は、勝山高校への通学利用の利便性を高めるダイヤ改正と通学利用に対する補助を継続実施 	必要に応じて福井県や福井市、勝山市、京福バスと情報共有するなど連携していく。

【年間単位の進捗管理、評価スケジュール】


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
協議会		①						②			③	
実施すること			(確保維持改善計画)					・ 補助申請 ・ 自己評価			(第三者評価委員会)	

【協議会の実施状況】

- 第1回協議会 5月20日
主な議題： R 6 利用実績、二次評価結果、確保維持改善計画
- 第2回協議会 11月14日
主な議題： R 7 上半期利用実績、自己評価、 補助金交付申請について
- 第3回協議会 2月 日（予定）
主な議題（予定）： R 7 事業の実績報告、 R 8 事業、 R 8.4月からの運行内容について

『ミニ北陸新幹線・越美北線見学会』 ～子鉄集まれ！！ふれあいパーク～ 実施報告書

資料6

概 要	名 称	『ミニ北陸新幹線・越美北線車両見学会』 ～子鉄集まれ！！ふれあいパーク～	
	日 時	令和7年11月9日（日） 10時00分から15時00分まで	
	会 場	越前大野駅前広場	
	主 催 等	(主催) 越美北線と乗合バスに乗る運動を進める会 (協力) JR西日本 金沢支社	
	目 的	越美北線に触れ合う機会を提供することにより、越美北線に親しみを 持ってもらい、ひいては、日常生活の中で越美北線を利用してもらうこ と。	

詳 細	内 容	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミニ北陸新幹線乗車体験 ○ 越美北線線車両見学会・保線係員による業務説明会 ○ 北陸新幹線駅弁祭り ○ JR制服制帽記念フォト ○ 新幹線スーパーボールすくい ○ 特 典 <ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者全員に越美北線キハ120型のトレーディングカード進呈 ・ 更に越美北線で来場された方に、ロゴステッカーを進呈 <div>      </div>
	結 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来 場 者 数 約350名(当初目標600名) ○ 所 感 当日は天候に恵まれず想定を下回る来場者となった。しかし、来場者には楽しんでもらうことができた。越美北線に対する愛着は一定程度、醸成できたと感じる。今後もこの様な取り組みを継続的におこない、日常利用に繋げていきたい。